

学力向上推進員	委員
島田 紘季	校長 林 献司 教頭 吉岡日出利 教頭 谷中英昭
	教務主任 那住公子 研修主任 影田博徳 1年主任 鎌田明美
	2年主任 築地靖幸 3年主任 和泉淳子 各教科主任

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	多くの生徒は学習に対してまじめである。また音読や、発表など表現することを好み、方法や手順がわかる学習にもまじめに取り組む。	「授業の内容がだいたいわかる」の「強く思う」と「そう思う」生徒を80%にする。			
課 題	基礎・基本的な内容が定着していない生徒が多くみられる。また、既習の知識が系統的でないため、自分の課題や目的に応じて、聞いたり、まとめたりする力や、論理的に説明する力に課題がある。	①家庭学習を「毎日1時間以上している」を50%以上にし、「全くしない」を0%にする。 ②毎日継続し、授業に合った進度を保つ。 ③長期休業中に3日～5日実施する。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>			
	①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の定着を図る。 ②毎朝のセミナーで基礎的知識の習得を図る。 ③長期休業中の各学年による補充学習(質問教室)を実施する。				

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	授業中の発表にはまじめに取り組んでいる生徒が多い。またレポート等をまとめたりすることはできる。	「学習した内容をまとめたり、人に伝えたりできる」の「できる」を70%にする。			
課 題	自分の課題や目的に応じて聞き取ったり、まとめたりする力、また必要な情報を選択し、筋道を立てて説明することが苦手である。	①授業の振り返りを行う。 ②年間通じて授業参観(T.T)を実施。 ③「授業が工夫されていて楽しい」生徒を80%以上にする。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>			
	①授業の中で、生徒どうしが話し合い、考えた内容を発表する場面を積極的に設ける。 ②授業力向上の研修を行う。				

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	自主学習ノート「がんばりノート」が定着しつつあり、家庭学習率にも若干の上昇がみられた。また、授業の準備物を用意する習慣も身につけてきている。	①「がんばりノート」の活用率90%を目指す。 ②「ノーチャイムで自主的に着席ができてい」る「授業の準備物を忘れないようにする」を90%以上にする。			
課 題	「がんばりノート」の使用が形式化・非効率化し、必ずしも学力向上に直結しているとはいえない。また、全体的に教師が呼びかけないと着席しようとしていない。一部、時間を守れない者や、忘れ物が多い者もいる。	①定期的にノートのページ数調べを行い、ページ数が多いクラスを表彰する。 ②「始業時間とともに授業が始められるように工夫している」を100%にする。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>			
	①定期的に「がんばりノート」コンテストを実施。 ②「2分前着席」ができるように指導する。				

平成29年度 学力向上ロードマップ

